



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2017年度 No.3)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC 賞授賞のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2017 開催のご報告
- ◆2018 年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2018 (第 17 回情報科学フォーラム) 投稿のご案内
- ◆HC 特集号投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (WIT)
- ◆研究会活動紹介 (CEA)

HC 賞授賞のご報告

庶務幹事
今井順一 (千葉工業大)

平成 29 年度ヒューマンコミュニケーション (HC) 賞授賞式が、平成 29 年 12 月 14 日、金沢歌劇座 (HCG シンポジウム 2017 会場) にて開催され、受賞者に賞状と副賞のクリスタル盾が贈呈されました。HC 賞は、過去 1 年間に開催されたヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) の第一種研究会 (HCS, HIP, MVE, WIT) における技術研究報告を対象とし、各研究専門委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。受賞件数は発表 25 件につき 1 件、以降 50 件ごとに 1 件を基準としており、HCG が授与する賞の中で最も権威の高い賞となります。

本年度は次の 7 件の発表が受賞しました。

1. 「舞台表現における他者との相互作用のダイナミクス—コミュニケーションの隠れた次元としての距離による検討—」(HCS2016-95)
2. 「乳幼児の保護者の『子どもに対する想い』—インタビューを基にした構成要素の抽出—」(HCS2016-76)
3. 「クラウドソーシングによる知覚研究—コントラスト感度測定の場合」(HIP2016-72)
4. 「レモン飲料の味知覚、嗜好性における、酸および糖の交互作用について」(HIP2016-71)
5. 「TMR 高精度磁気トラッキングによる広域空間における 3 次元位置の計測手法の提案と評価」(MVE2016-76)
6. 「自閉スペクトラム症による自動ソーシャルスキルトレーニングの訓練効果」(WIT2016-52)

7.「ろうベースの盲ろう者の自立した情報獲得を目指した触指文字ロボットの開発」(WIT2016-87)

いずれもコミュニケーションにおける研究課題に対して独自の視点から取り組んだ魅力的な研究となっており、着眼点や得られた結果の興味深さ、各分野への発展性などの観点から高く評価されました。

受賞一覧は下記 URL よりご覧いただけます。各発表の技術研究報告もぜひあわせてご覧ください。

<https://www.hcg-ieice.org/2017/12/22/>平成 29 年度ヒューマンコミュニケーション賞-hc 賞/

HCG シンポジウム 2017 開催のご報告

企画幹事
吉田寛 (NTT)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 主催の HCG シンポジウム 2017 は、石川県の金沢歌劇座にて 2017 年 12 月 13 日 (水) ~15 日 (金) の日程で開催されました。21 セッションで 124 件の発表件数があり、参加者数は 244 名と、いずれも過去最高の発表件数、参加者数と記録する盛会となりました。

2013 年から始まった、全ての口頭発表者にインタラクティブセッションの発表枠が付与される仕組みは今年度も引き続き行われ、非常に活発な議論が行われました。ポスターによる発表に加えて、さまざまなデモを含んだ発表が増加しており、研究者と議論しながらその場で体験とフィードバックを行う、文字通りインタラクティブなディスカッションが行えたことは大変有意義だったと思います。二日間のインタラクティブセッションのそれぞれに対して、参加者の投票により決定されるインタラクティブセッション賞 (最優秀、優秀、学生優秀) が贈られました。

同じく 2013 年より始まった特集テーマセッション (旧名称: オーガナイズドセッション) についても、「雰囲気工学」「ソーシャルイメージング」の 2 セッションが企画されました。テーマを絞って異なる分野の研究者が議論を行うこの企画も、HCG シンポジウムの欠かせない企画の一つとなってきました。優秀な発表に対しては、各セッションで特集テーマセッション賞が贈られました。

さらに今年は特別セッション (旧名称: 企画セッション) として「シビックテック」をテーマに、シビックテックの先進地域である北陸で活動する 3 名のキーパーソンから招待講演を頂き、シビックテックを通じた研究や技術の社会実装への期待や課題について参加者と議論しました。

大会二日目には、HC 賞の授賞式とチュートリアル講演が行われました。HC 賞は

最近1年間の間にHCGの第一種研究会に直接申し込まれ、優秀であると評価された研究7件に贈られました。

チュートリアル講演では、大阪電気通信大学の小森政嗣教授をお迎えし、「工学系研究者のための心理学的研究手法ガイド:研究計画から実施,成果公表まで」と題して講演が行われました。HCGの関連領域に興味・関心がある、工学系諸分野をバックグラウンドにもつ研究者、学生を対象に、小森先生の研究や査読の経験を基に、研究の進め方に関する俯瞰的かつ実践的なチュートリアルとなり、多くの参加者に好評を博しました。

今年度の新たな取り組みとしまして、同じ歌劇座で連続開催となったHAIシンポジウムとの連携企画を開催しました。「HAIとHCGの相違点、共通点」と題した共同パネルセッションを通じて、新たな相互理解のきっかけを提供できたかとおもいます。

また最終日には石川県他の協力のもといしかわサイエンスパーク（ISP）見学ツアーを開催し、11名の参加がありました。

次回のHCGシンポジウム2018は、2018年12月12日（水）～14日（金）の日程で、三重県伊勢市のションフォニアテクノロジー響ホール伊勢にて行われる予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

2018年総合大会開催のご案内

企画幹事
吉田悠（NEC）

2018年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年は東京都足立区にある東京電機大学東京千住キャンパスにおいて開催されます。

会場：東京電機大学 東京千住キャンパス
会期：2018年 3月20日（火）～23日（金）

最新情報につきましては下記をご覧ください。

<http://www.ieice-taikai.jp/2018general/jpn/>

電子情報通信学会では、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しております。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）を含む5ソサイエティ1グループが一堂に会して開催されます。今年の総合大会では、3月22日（木）に、プレナリーセッションが開催されます。本セッションでは、まずオープニングセッションとして、電子情報通信学会会長の篠原 弘道氏による講演が開催されます。その後、学術奨励賞授賞式・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式に続き、「データ主導社会の実現に向けて」として、総務省政策統括官の谷脇 康彦氏の講演がございます。また「超スマート社会に向けての技術動向」として、東京電機大学教授（元NTT研究所長）の前田 英作氏の講演がご

ございます。

また、総合大会では例年、多数の企画セッションが開催され、今大会においても49件の企画セッションが提案されております。HCG関連では、「ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤と知的環境」(ヒューマンコミュニケーショングループと通信の共催)の企画セッションが予定されております。

- ・ ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤と知的環境 (3月22日(木))
オーガナイザ：中澤 仁 (慶應義塾大学), 伊藤 昌毅 (東京大学)

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

FIT2018 (第17回情報科学フォーラム) 投稿のご案内

企画幹事
吉田悠 (NEC)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG), 情報・システムソサイエティ, 及び情報処理学会が共催する FIT2018 (第17回情報科学技術フォーラム) をご案内申し上げます。今回は福岡工業大学 (福岡県福岡市) において開催されます。

会期：2018年9月19日(水)～21日(金)

会場：福岡工業大学

2018年4月下旬より一般論文および賞対象論文 申込受付開始を予定しております。

最新の情報は下記の URL をご参照ください。

<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2018/>

本フォーラムは、2つの学会の大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式に捉われずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきております。皆様の研究成果発表の場として、論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

HC 特集号投稿のご案内

HC 特集号編集委員長
武川直樹 (東京電機大)

昨年より「ヒューマンコミュニケーション」論文特集号 (以下「HC 特集号」と表す) は常設の編集委員会として運営しています。これからますます発展することが期待されるこの分野の論文発表に対して戦略的に取り組み、査読編集

方針の継続的検討が重要と考えたことによります。昨年は、その1年目の取り組みとして編集委員が精力的に取り組み、熱い議論の結果、特集号発行の運びとなりました。今年度も、以下の狙いの下で高いクオリティの論文誌となるように努めたいと思います。

- ① 一貫性，継続性がある査読・編集が行われることによって，HC 特集号掲載論文の面白さ，クオリティ，革新性，影響力を向上させることを狙う。
- ② HCG として組織的に HC 特集号の査読プロセスに関わる者（特に若手研究者）の査読・編集スキル向上を図り，多くの者が査読プロセスに参画できる枠組みを構築する。
- ③ HCG 外の研究者が HC 特集号の査読プロセスに参画することにより，より広いコミュニティの HCG への参画，融合を図り，HCG シンポジウムと併せて HCG を国内の HC 研究および関連研究の中核的コミュニティへと発展するための基盤とする。

編集委員会としては，今後以下のような活動を進めてまいります。

- (A) 編集委員会の定例開催
- (B) HC 特集号の企画と運営
- (C) 編集委員ならびに査読委員の候補者の情報管理
- (D) 編集委員ならびに査読委員（候補者も含む）向けチュートリアルの企画・実施
- (E) 論文執筆者向けチュートリアルの企画・実施

今後，取り組み状況につきましてはその都度ご報告する予定です。

－ ヒューマンコミュニケーション特集（和文論文誌 A）論文募集 －
～ヒューマンコミュニケーションと価値創造～

ヒューマンコミュニケーション特集編集委員会

情報通信技術（ICT）の進歩によって，私たちの生活の利便性は向上する一方，生活の多様化，複雑化に伴いプラスの側面ばかりとは限りません。技術の進化は私たちの一人一人の生活を変えると同時に，他者とのかかわりや生活環境とのかかわりも変えていきます。ヒューマンコミュニケーショングループでは，このような状況のもと人が技術・社会・環境と相互に豊かに関わるためのコミュニケーションの研究を横断的に議論する必要性から，HCG シンポジウムを毎年開催し，会員の交流の場を提供して参りました。さらに HCG シンポジウムの成果，および関連する分野の研究成果を論文として広く情報発信するため，平成 16 年から隔年で，平成 25 年からは毎年，和文論文誌の A，D，あるいは英文論文誌のいずれかで特集号を発行しています。独自の論文誌を有していないヒューマンコミュニケーショングループの会員にとって本特集は，日頃の研究成果を発表する絶好の機会となっております。同時に，研究分野として深い関連性を有する基礎・境界ソサイエティ，情報・システムソサイエティの会員にとっては，有益な情報提供の場となっております。

ヒューマンコミュニケーショングループの発展にとって、このような活動を今後も継続・拡大していく意義は大きいと思います。本学会の基礎・境界ソサイエティ、情報・システムソサイエティとの連携を強化するとともに、心理学、社会学、文化人類学、言語学など HCG に参画いただく、多くの研究者に投稿いただける特集号となるよう、和文論文誌 A「ヒューマンコミュニケーション」特集号（平成 31 年 2 月号を予定）を企画します。本特集では、人間の知覚、認知、メディア処理、人工現実感などを用いた情報環境構築のための基礎技術、及びそれらの応用技術までの幅広い分野からの論文を募集します。ヒューマンコミュニケーションの視点から様々な技術を統一的に俯瞰することで、価値ある生活環境構築を実現するための議論となることを期待します。幅広い分野からの多数の方々の積極的なご投稿を期待します。

なお本特集号では、ヒューマンコミュニケーション研究の成果をよりの確に伝えるために、映像または音声のデジタルデータを論文に添付することを可能にします。ただし、これは査読プロセスにおける参考資料としての利用に留められ、採録された論文にはこれらのデジタルデータは公開されませんことを予めご了解ください。

1. 対象分野

ヒューマンコミュニケーション基礎

ヒューマン情報処理

マルチメディア

仮想環境基礎

福祉情報工学

発達障害支援

ヒューマンプロンプト

情報の認知と行動

ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション

食メディア

その他ヒューマンコミュニケーション全般

2. 論文の執筆と取扱い

通常的一般論文と同一とします。原則として、論文は刷り上がり 8 ページ以内、レターは刷り上がり 2 ページ以内とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は 4 ページです。前記標準ページ数を超えると、掲載料が急に高くなりますのでご注意ください。詳細は和文論文誌投稿のしおりを御参照下さい。

http://www.ieice.org/jpn/shiori/ess_mokuji.html

査読後の再提出期間（通常は 60 日間）が短縮される場合があること、また、採録論文数が多い場合には、一般論文として掲載される場合があることを予めご了承ください。

3. 投稿方法

投稿は、本会電子投稿システム

< https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx >

による電子投稿（PDF ファイル）のみと致します。印刷物及びメールでの投稿は受け付けません。なお、上記 Web での登録の際，“ソサイエティ／特集”は“[特集 HA] ヒューマンコミュニケーション”を選択して下さい。

“[一般 JA]基礎・境界”や他の特集を選択されませんようご注意ください。

また、WEB 上で著作権譲渡手続きを進めて下さい。投稿手続きについて御不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

【学会事務局連絡先】

一般社団法人電子情報通信学会 編集出版部論文課

E-mail: wabun-a@ieice.org

4. デジタルデータについて

- ① デジタルデータは映像コンテンツや音声コンテンツに限ります。
- ② デジタルデータは論文の査読プロセスにおける参考資料として利用されます。
- ③ 論文本体は完結する首尾一貫した内容であることが求められ、添付されるデジタルデータはあくまでも査読プロセスにおける参考資料として利用され、たとえデジタルデータを添付した論文が採録されたとしても、論文誌やそれに準ずるメディアにはその論文のみが掲載され、添付されたデジタルデータは公開されません。
- ④ デジタルデータの容量上限については以下の通りとします。
 - (a) 1 ファイルあたりの上限は 50MB まで
 - (b) 1 論文あたりの上限（容量，ファイル数）は設けない
- ⑤ 投稿論文へのデジタルデータの添付（提出）方法は、デジタルデータを収録したメディア（CD/DVD あるいは USB メモリ）を事務局まで投稿締切日までに送付してください。その際、必ず投稿した論文のタイトルおよび著者等を分かりやすく表記し、投稿論文とメディアとが正しく対応づくようにしてください。

5. 投稿締切

平成 30 年 4 月 27 日（金） 厳守

※採録通知後 7 営業日以内に早期公開となりますので、特許申請が関係する場合はご注意ください。

6. 編集方針

編集方針は和文論文誌 A の編集方針と同一です。ヒューマンコミュニケーション分野は新しい研究領域であることから、この分野の研究を刺激し、発展させる先導的な研究成果をいち早く採録するために、新規性・有効性には特に重点を置いた査読編集方針を採ります。例えば、

- (1) 研究における問題設定・着眼点・コンセプトの新しさ
- (2) ヒューマンコミュニケーション分野を発展させる有用な知見の有無
- (3) 既存の研究・製品・サービスに対する研究の有用性・新規性の位置付けの 3 点を新規性・有用性の評価において明確に判定します。信頼性に関しては、上記の主張点の妥当性を判断する根拠が客観的に示されていることを重視します。

7. 特集号編集委員会

- 委員長 武川直樹 (東京電機大学)
副委員長 小森政嗣 (大阪電気通信大学)
幹事 高梨克也 (京都大学), 竹内勇剛 (静岡大学), 近藤一晃 (京都大学),
坂本隆 (産業技術総合研究所)
委員 雨宮智浩 (NTT), 安藤英由樹 (大阪大学), 石井雅博 (札幌市立大学),
石井亮 (NTT), 井手一郎 (名古屋大学), 井野秀一 (産業技術総合
研究所), 草野孔希 (NTT), 繁榊博昭 (高知工科大学), 高嶋和毅 (東
北大学), 寺田和憲 (岐阜大学), 新井田統 (KDDI 総合研究所),
塙大 (名古屋市立大学), 藤原健 (大阪経済大学), 松田昌史 (NTT),
宮崎慎也 (中京大学), 森田ひろみ (筑波大学)

8. 問い合わせ先

武川直樹 (東京電機大学)
E-mail mukawa@mail.dendai.ac.jp

9. 付記

- ・ 締切日を厳守してください。
- ・ 論文採録の場合には掲載料が必要となりますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 投稿に際して、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、受け付けないこととなりますのでご注意ください。入会の案内はこちらをご覧ください。

<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>

研究会活動紹介 (WIT 研究会)

WIT 運営委員長
和田親宗 (九工大)

福祉情報工学研究会 (WIT: Well-being Information Technology) は、障害者や高齢者の情報・通信関連の諸課題に取り組む先端的情報・通信技術や科学をはじめ、認知科学、言語処理、HI など関連諸研究に従事する研究開発者が一同に会し、発表、討論する場を提供することを目的として、1999年に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) の第2種研究会として発足し、2001年からは第1種研究会として活動しています。

WITでは、視覚、聴覚、発声、運動機能、知的などの障害やこれらの重複障害などを有する当事者、また加齢に伴って障害を有することになった高齢者を直接的に支援するシステムや装置、方法論の問題定義や研究開発についての発表がなされています。また、最近では、当事者や高齢者を支える支援者や介護者など周りの人々を支援するシステム、装置、方法論についての問題定義や研究発表もなされています。

言うまでもありませんが、これらの研究開発を進めるに当たっては、電子、情報、通信の工学分野だけでは不十分なことが多く、近年では、人間工学、機械工学、ロボット工学、さらに医学、心理学などの研究者も加わった研究事例が発表されています。また、最新トピックスである機械学習や深層学習の技術をWITの分野に適用した研究事例も見受けられ、当事者や高齢者の支援に多方面からの協力が得られつつあります。

WITでは、上述のように広い研究分野をカバーするため、関連学会・関連研究会との共催等を積極的に進めています。例えば、感覚代行シンポジウム、HI学会研究会、産総研ジェロンテクノロジー研究フォーラム、IEEE EMBS Japan Chapter、IEICE音声研究会、人間工学会などです。また、日本各地から研究会に参加しやすいように、できるだけ様々な場所で研究会の開催を試みています。例えば、2018年度は、横浜、長野、福岡、東京、筑波で開催予定です。

また、研究についての議論を深めるため、研究者のみならず、当事者や支援者が容易に参加できる雰囲気作りを進めています。具体的には、「誰でも参加できる学会を目指して、大会・研究会における、障害のある人への情報保障方法を確立する」ことを目標として、研究会の発表募集や開催案内には、視覚障害者向けの点字・テキスト資料の配布や聴覚障害者向けの手話通訳・要約筆記などの実施を明記し、希望がある場合には対応しています。

さらに、優秀な発表に対する「ヒューマンコミュニケーション賞」のWIT独自の選考方法として、発表内容の評価に加え、アクセシビリティガイドラインを評価軸に含めた評価を用いています。この取り組みをさらに発展させ、発表していただいた研究者の皆さんに対して、内容とアクセシビリティについてより良いフィードバックができるようにしていきたいと考えています。

過去の幹事団や発表者、参加者が作ってきた自由な議論のできるアクセシブルな環境づくりを継承しながら、これまで以上に活発な研究会運営を幹事団一同で心がけ、WITをますます発展させたいと考えています。福祉・健康・コミュニケーション・社会参加など、生き甲斐のある生活を支える技術の研究開発に関心のあるHCGメンバの方々によるご参加・ご発表を心よりお待ちしております。

研究会活動紹介（CEA研究会）

CEA運営委員長
井手一郎(名古屋大)

食メディア（CEA）特別研究専門委員会（昨年 of 研究会規定改正以前は時限研究専門委員会）は、前身の料理メディア（CM）第3種研究会と通算して、お蔭様で昨年度、設立10周年を迎えました（CEAは2011年度から）。これを記念して、昨年9月に東京大学本郷キャンパスで開催された第16回情報科学技術フォーラ

会員番号，氏名をご連絡ください．処理に 1 ヶ月程度かかりますので，入れ違いに，再度情報配信された場合は，ご容赦ください．

（ご連絡いただいた場合は本会，登録ソサイエティ，グループ，支部，からの全ての情報配信が止まりますので，情報配信を再度希望される時も，その旨，henkou@ieice.org までご連絡下さい．）

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice

（社）電子情報通信学会 サービス事業部

TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659